寶暦令典永鑑

八下

814
特別
7

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

延享三寅年正月

寺社奉行ニ

正月十日十月十四日

常憲院様　文昭院様御称月ニ付

唯今迄ニ　御靈屋ニ　御案詣之ニ

御廟ニ成　御案詣有之ニ以後大向後ニ

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7

ガラス使用

御靈屋に斗れ於
御廟案之所於写發以御年忌御法事
有之筈之　御廟所に蔵
御案請下之於以
右之屋於　給書以写之可於之宗
正月

延享之寅年正月

幸社奉行に
深徳院様　御位牌御安置之身白為
御菓湯料毎年銀之拾枚宛護法院に
御下以
一　御門跡思召之通随分懐キ不之身年中

行事ハ不及毎日朝夕勤行ハ不及
不及ハ毎月御忌日ニ志次第別当勤
可有之ハ老一山出仕ハ不及ハ
右之通ニ得重ニ念上野執当ニ下ニ達ハ

延享三寅年正月

寺社奉行ニ

深徳院様　御霊前ニ

正月
五月
九月
十二月

廿四日

上野ニ御名代
老中

十月　上卿ニ　御条清
　　池上ニ　御名代　　少例亢

盆中　池上ニ　御名代　　若年寄

毎月　上卿ニ　御名代　　若年寄

右之歴ニ向浮ニ計相心得ニ上卿桃園本門寺ニ計
達ニ置ニ

延享三寅年二月

御勘定年行ニ

深徳院様御位牌料ニ花菜ニ而百俵
御寄附ニ成ニ無須本門寺ニ計渡ニ
右之通寺社年行ニ相達ニ置ニ以後ニ意ニ計続ニ

延享三寅年四月

朱八日池之本門寺

源徳院様　御位牌所　御廟所

法系諸

一　法繼様六半附

一　御成　還法大　沙小休東海寺

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7

ガラス使用

右之無一社領之宗以厨斗目米袴可有
忌用以
但途中羽織袴ならへくは

池上
源徳院様　御位牌所　御廟所
御参詣　還御以後御機嫌伺候上野

増上寺　御参詣之節之通ならへくは

右之通可社達は

延享之寅年四月

明後八日池之　御參詣御延引来ル九日

社遊　御參詣ハ有松平能覺寺殿ニ給ヘ

ハ〻付相觸ハ〻

四月　大目付

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7
ガラス使用

延享之寅年四月

明九日池上　御參詣御延引之旨天氣
次第朱ハ十四日之旨　御參詣ハ自和平
能光ゟ度之給事ハ付和觸ハ
四月
大月付

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7
ガラス使用

延享三寅年四月

寺社奉行

四月廿日上卿

大猷院様　御靈前　御香清之芸

巖有院様　御宮殿圓々不及出香旗蔵

おスミ不及四月八日

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7

ガラス使用

嚴有院様　御靈前　御菓詣之良
大猷院様　御宮殿岡々ニ及ル香燻ニ被
一　無御靈屋　御菓詣之良ニ向編
御数方ニ　御法ニ於ハ付ル香燻二ツ丸ニ、古ハ事
右之無向後相心得ハ居ニ上野役者ニ達ハ
二月

延享三寅年六月

朱月
洋学院様二十一回御忌御法事ニ付
敬ニ行ハ依之死罪ニ又ニ遠ニ成
祈之者ニ外前之御法事之敬ニ書ハ
ハ類狂罷之者ニも相交致ル筈

延享三寅年五月

松平能登守率去身分國持席表向之
面之壱中宅ニ於十日以使者御機嫌
可被相伺ニ事

但

大御所様御機嫌伺并隠岐守宅ニ

可被書出ニ
五月

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7
ガラス使用

使者は花絨不及は

一 房間諸菓間縁敷諸諸番所諸相所
諸役人ハ為伺沙機嫌明日巳時ニ登城
城は事

但西丸ニ不及出仕は

一 在國在邑之面之ハ以花札沙機嫌可出
相伺は事

但

大御所様　大納言様為伺沙機嫌
花札は花絨不及は

一 鳴物ハ今九日より十一日迄停止は事

但 普請不苦は事

右之無之ニ相觸は

六月

延享三寅年五月

朱月於東叡山御法事中讀經之内斗
壹人宛暫之一ニ於相勤ハ壹大忌誠恭ニ
ニ於讀ハ
五月

右書付以同付ニ相摸ニ渡ス

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7
ガラス使用

延享之寅年五月

御法事中毎日詳礼之事

堀田相撲ゟ

若年寄

鳥居伊賀ゟ

大御所様

大御所様

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7

ガラス使用

逸見出羽与
江目付
江流民
小十人民

右十七回沙忌之括下記相心得は
一御法事中相詰は面之布衣以上を
深帷子長袴を以下を半袴可為

忌用事
又月

御女中様方より朱月九日江用人を以
沙香奠江上社成は御江名代之弥礼も
を芸江目付に取合相勤は根中渡は勿
得を忌法事十七回沙忌之無可記

人詩は
五月
右書付法用付日本美作録を渡し

延享二寅年五月

松平加賀守
松平下総守
松平肥後守
牧野伊後守
阿部伊勢守

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7
ガラス使用

右之分朱月以法事中為綱御機嫌
公方様　大御所様ニ以水菓子一度ヲ有
献上ハ以精を明之御者ニ不及献上ハ右之外
在府之万石以上之分献上ハ不及ハ尤以法事
相濟以精を明之以者蔵者ニ不及ハ
右之無ニ可相違ハ
六月

延享三寅年六月

今度
御曾院様御法事中表向ニ而ニ不及
条請ハ且又御法事相濟
大御所様　御条請付ニ而ニ結ハ無ニ事
六月

元

一 今度於東叡山沙法事中前々之通立合
内寄合ニ而法ハ勿論拷問ノ頭或筵合或縄掛
ハ能々儀ハ不為無用ハ事

一 沙法事中普請嘱西京礼法事ハ不及
相心ハ事

以上
又月

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7
ガラス使用

延享三寅年五月

恭受院殿遊去ニ付今廿一日より廿三日迄

鳴物停止ニ

但

大御所様　大納言様御同付ニ

ニ付通ニ

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

右之通下江相觸ハ
右書付大目付江目付ニ中務大輔水野
壹枝寺渡之

延享三寅年五月

来月九日於東叡山敬之者有之ハ如例
其人ニ江相越ハ其所奉行ニ江談ハ
五月

右書付江目付ニ本多伊豫ニ渡之

延享三寅年五月

朱月

御学院様御法事相濟

大御所様　御条詣　御泳

公方様　御名代有之以英　右衛門督殿

刑部卿殿院後中納言殿紀伊宰相殿院法中將殿

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7

ガラス使用

江家詣は其外は香奠未上り以後諸事
十七回は忌し毎は事
一 十七回は忌し良は法事中家詣往は面々は
奥向表向大村度茂家詣有之は香奠
上来は分ハは香奠茂茂之は同下は約
ことゝ意は

延享三寅年六月十七日

一 養仙院様御不豫之所は養生不和為叶
今朝就は遊去為伺御機嫌明日御酒諸
諸庭は奏者番斗一有也 城は也
西丸は茂古江
大御所様御機嫌一日伺は

大納言様ニ其御機嫌相伺不及ハ

一右之向病氣初少之間之ハ月番之老中
宅ニ使者ヲ以老職ハ直ニ而之間之ハ老中ニ
花札ヲ以老職ハ

一右之外之間之ニ出仕英御機嫌伺ニ
不及ハ

一明朝今日より朱ハ歩之日之下為縁山ニ
普請ニ不苦ハ

右之毎可以相觸ハ老
大御所様　大納言様ニ御月付ニ成可
以達ハ

六月

延享三寅年六月

於東叡山御法事中宣之内壹人宛

見廻りは根下ニ致は

六月

右書付大同付ニ相撰ち渡ニ

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7

ガラス使用

延享三寅年六月

養仙院様

六月廿六日酉中刻出棺同夜以葬送

右之世日事

朱廿六日

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

養仙院様御出棺之節御道筋過図

御寺殿より
中町出口之
中町入口より
上野坂下門之
上野坂下門より
新浜水口之

小笠原源泳
内藤下総守
米倉福之郎

右之面々御輪は挑灯過図ホ人多無之候
見斗ニ而御出は委細中山之郎兼蔵浪
新之郎ニ而御請は

一御道筋ニ而之御つゝ曲書沙書不及
御詰は
右之面ニ而御達は
六月

延享三寅年六月

三年行日

養仙院様御法事ニ付敬日行ハ
死罪者又ハ重禍ニ不成程之者
ハ其外前々御法事之敬ニ書出
ハ敬順罪之者とも相交被可笞

丁社書出ハ
六月

延享三寅年六月

養仙院横沙法事初日為伺沙機嫌漏法
法庇以養者番斗ニ有光
城ハ西丸ニ成
出仕
大御所様沙機嫌ニ社伺ハ
大納言様沙機嫌伺ハ不及ハ

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』　請求記号 814-7
ガラス使用

一右之向病氣初少之面之七月番宅中宅ハ
使者ニ於宅誠ハ生訓之面之ハ宅中ハ就机可
於宅誠ハ

一此外之面之出仕并御機嫌伺ニ不及ハ
右之面之可於相觸ハ
大御訓様　大納言様ハ同対ニ蔵ニ於遂ハ
六月

延享三寅年六月

養紀院様ハ法事対ハ番奠就之之後
常之就之掲蔵仕来ハ之ハ番奠ニ有
就之ハ宅宅之ハ常之ニ於宅中支配ハ
月番之宅中若年寄支配ハ板倉伯渡ニ
前以之ニ申聞ハ

組十万石以上銀弐枚を以下ハ銀壱枚宛
万石以下茂右ニ准し一ヶ月之日
右之銀可計達ハ

延享三寅年六月

一 養仙院様　御牌号
随性院様ニ年称ハ
於上野御法事
六月廿六日より
七月之日ニ
右之通ハ事

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7
ガラス使用

延享三寅年六月

明廿五日酉中刻

随性院横沙棺槨

東叡山に社為　入は沙道筋出す殿出門より

第町史分中町通廣小路左に池湯通り新清水口

右之通は間町中之者大行方に蔵不致書火之

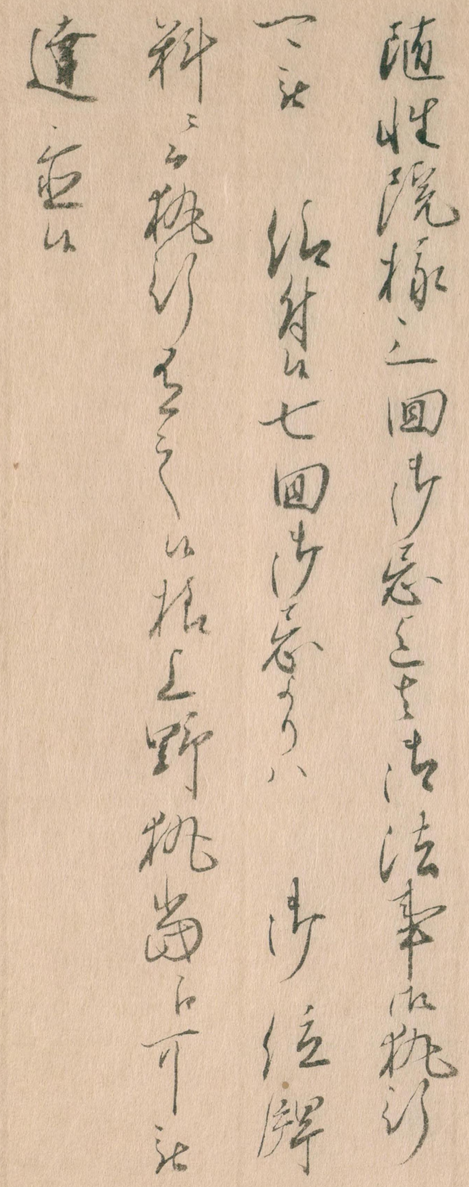
用心之紙札分入急月行事裏ゝゝ度々

右廻り江油町七ヶ所付ニ至御棺槨出通シ道筋ニ
一切在出ヶ間敷ニ町ニ名ニ今月行事前後ニ
木戸ニ付居喧嘩口論萬事掲喋敷事
江ニ拾ニ添入ニ至ヘ七ヶ所付ニ
一御棺槨等御見ニ候一切不在成ニ間敷ニ
戸ニ居男女とも不居ニ古掲者江ニ拾ニ結ニ
表ニ間敷ニ庶シテ桶ニ水ニ入出ニ至ヘ少茂

油町首同敷ニ以上
六月

延享二寅年七月

寺社奉行



延享三寅年七月

以勅定年行日

隨性院様以 位牌料以花菜之式百俵

以寄附[illegible]以寺社年行可被讀以

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

814
7

国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『宝暦令典永鑑』 請求記号 814-7